

月下香

中村祥二 (会長)

夜、香りを強める花は多い。その代表的なものは月下香、夜来香、夜香木である。

以前、この3種類の植物の認識については若干混乱があり、朝日新聞の声欄に数回にわたり投書のやりとりがあった。イエライシャンは中国大陸では夜闇の中に強い香りを放つ花の総称のようであり、李香蘭の歌った夜来香のイエライシャンは月下香のことだという投書も含まれていて、混乱に輪をかけた。一般の人にもこの3種類の実物を見てもらいながら納得してもらおうと、植物の専門家や香料関係者がフォーラムのようなものをしようということになった。私もかり出されて、夏の宵に新宿の戸山の植物相談所で蚊に食われながら話をしたことがある。

月下香はヒガンバナ科で、まれに町の花屋でも切り花を見かける。房総あたりで栽培されているらしい。メキシコ、中南米の原産で、以前はフランスや台湾で栽培されていたが、土地や人件費のコスト高のためインドに移っている。現在ではローズやジャズミンをしのぐ高価な花精油なので香料として使われることはなくなった。

香りはラクトン様の重さのある華やかな強い拡がりのある甘さを持っている。花瓶に切り花を挿しておくと、夕方から香りがどんどん強くなってくる。花を一輪とってテーブルの上に置いておいても、香りが強まってくるのが面白い。

昨年の夏、花の好きな知り合いから月下香が咲いたので来ないかと誘われた。夜に香る花の例にもれず月下香の白い花は夜目にも浮き上がるように見えた。蒸し暑さの残る夜気の中、あたりはむせるような強い香りが広がっていた。たくさんの花のついた花茎をお土産にどうぞと言われたのを断って、花一輪を頂いて帰った。小さな皿に水を入れ、開きかけた花をのせテーブルの上に飾っておいた。翌朝、同じテーブルの上に置いておいたハンドタオルで顔を拭いたところ、オヤッと思った。ほのかな花の香りがする。とても気持ちが良い。夜の間に花から香り



月下香 *Polianthes tuberosa*

が移ったのだ。試したところ次の朝も同じことが起こった。3日目はさすがに香りは移っていなかった。花もくたびれたようだ。

頂いた球根を植えたところ、発芽した葉は光沢のある緑で順調に伸びている。月下香は積算の温度が多くないと花をつけないという。高温傾向が続けば私の月下香も夏の終わりには芳しい香りを放ってくれるだろう。楽しみだ。